

# 政策評価シート（平成27年度実績評価）

## ◎ 政策の基本情報

総合計画 中期プラン	政策No.	2-4	政策名	日常生活の安全確保	政策の 目指す姿	安全・安心な日常生活を送っています	政策 主管課	市民生活総合相談センター	政策主管 課長名	高橋 久雄
	政策の方針	市民が日常生活を安全に安心して送るためには、悩みや問題の解決に向けた支援や地域と連携した安全確保の取り組みが必要です。 そのために、市民の生活相談に的確に対応できる体制を充実させるとともに、地域と連携した防犯活動や交通安全活動を推進します。								

## 2 成果指標の達成状況

成果指標名	成果指標設定の考え方 (なぜ、この指標で成果を測ることにしたのか)	成果指標の測定企画 (どのように実績を把握するのか)	単位	区分	H25 (基準年度)	H26	H27	H28	H35
消費者トラブル件数 (相談件数)	消費者トラブル被害の状況を示す指標	出典：市民生活総合相談センター 相談業務実績表における消費生活相談件数(悪質商法等消費者契約、貸借契約問題、サラ金・多重債務、金銭貸借)を集計。	件	目標値		850	830	810	780
				実績値	895	906	770	-	
侵入窃盗件数	侵入窃盗被害の状況を示す指標 (暦年)	岩手県警察本部統計資料	件	目標値		35	35	35	35
				実績値	37	37	35	-	
交通事故負傷者数	交通事故(人身事故)被害者の状況を示す指標 (暦年)	岩手県警察本部及び花巻警察署の統計数値	人	目標値		270	270	270	260
				実績値	276	236	261	-	
達成度	[達成状況に関する背景・要因]								
A	成果指標は、目標値と同数又は上回っている。 消費者相談件数の減少は、出前講座や各種会議などでの啓発活動を継続的に実施していることにより、トラブルが減少しているものと考えられる。 また、進入窃盗件数、交通事故負傷者ともに、岩手県全体においても減少しており、岩手県警察による広域的な取り組みと、市内の防犯、交通安全関係団体との連携した取り組みの成果であると考えられる。								

## 3 政策に対する各施策の達成度

No.	施策名	成果指標名	H25	H26			H27			H28		前年実績との比較	達成度
			現状値	目標値	実績値	達成度	目標値	実績値	達成度	目標値	見込み		
1	生活相談の充実	消費者トラブルに遭わないように注意している市民の割合(%)	52.5	55.0	54.3	b	57.5	49.3	c	60.0		↘	D
2	防犯活動の推進	外出時に施錠している市民の割合(%)	80.9	83.0	81.4	b	84.0	82.7	b	85.0		→	B
3	交通安全の推進	交通安全コンクール参加者数(人)	2,850	2,860	2,843	b	2,870	2,438	c	2,880	2,501	→	D

## 4 政策の総合的な評価

評価区分	政策の課題と要因
A-④	2政策指標の達成状況における達成度は「A」であり、目標を上回っている。 3政策に対する各施策の達成度における達成度は、「D」、「B」、「D」であり、トラブルに巻き込まれないための意識や防犯、交通安全意識の更なる高揚が必要である。
やや遅れている	市民が、安全・安心な日常生活を送るためには、様々なトラブルに巻き込まれないよう未然防止が重要であることから、啓発活動の充実を図る必要がある。 また、警察署、防犯協会、社会福祉協議会などの関係機関のほか、民間事業所との連携を更に充実させることも重要である。

成果指標達成度	A	☆			
	B				
	C				
	D				
		④	③	②	①
		政策に対する施策の達成度			

5 政策を構成する施策一覧

	施策名	生活相談の充実	施策の成果指標の達成状況	H26	B	H27	D
1		<p><b>[課題]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・近年、高齢者等が特殊詐欺に巻き込まれるケースが多発していることから、出前講座やコミュニティFMの活用以外にもタイムリーで確実に情報が伝わる仕組みづくりが必要である。</li> </ul> <p><b>[今後の方向性]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・東和地域の有線放送を活用した特殊詐欺などの情報提供のほか、消費者トラブル未然防止に向けたタイムリーな情報伝達手段を検討する。</li> <li>・高齢者等のトラブル未然防止のため、地域や関係機関等との見守りネットワークづくりについて、庁内や関係機関との協議を進める。</li> </ul>					
2		<p><b>[課題]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・防犯隊隊員の高齢化が進み、また後継者の不足が続いており、各種啓発活動の推進が困難になってくる可能性があることから、啓発活動のあり方を検討する必要がある。</li> <li>・管理不十分な空き家については、所有者の所在地が遠方であったり管理意識が低いことから、適正な管理や除却が進んでいない。</li> </ul> <p><b>[今後の方向性]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ターゲットを明確にした啓発活動について検討する。</li> <li>・防犯隊員等、地域の防犯を担っていただいている方々の実態や協力団体とのネットワークづくりについて検討する。</li> <li>・管理不十分な空き家については、空き家対策特別措置法により所有者等に適切な管理を促進するとともに、空家等対策計画を作成し、これに基づく対策等を行う。</li> </ul>		H26	B	H27	B
3		<p><b>[課題]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・街頭指導や地域での啓発等を担う交通指導員が高齢化しているほか、定員89名に対し現員79名と定員割れしていることから、交通指導員の確保が必要である。</li> <li>・交通安全教室開催回数は目標を上回っているものの、成果指標の参加者数は減少していることから、交通安全教室の開催のあり方を見直す必要がある。</li> <li>・高齢者の交通事故が多発していることから、早急に効果的な啓発活動を実施する必要がある。</li> <li>・交通安全コンクール参加者数が減少している。</li> </ul> <p><b>[今後の方向性]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・イベントなどへの出動を減らすなど交通指導員の負担軽減を図る一方で、各種会合に合わせた交通安全教室の開催など効果的な啓発活動のあり方を検討する。</li> <li>・高齢者の交通事故防止に向けた啓発活動について、警察署、交通安全協会、交通安全母の会などの関係機関や地域組織との連携による新たな啓発活動について検討し実施する。</li> </ul>		H26	B	H27	D